

## 大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	京都大学
整理番号	A-II-1
事 業 名	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成－災害復興の経験を踏まえて－

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p>交流プログラムの枠組みについては、震災復興という共通の課題に、防災・減災という我が国の強みを活かした取組が ASEAN 4 カ国・6 大学との間で、これまでの個々の大学との交流実績をベースに構築されている。</p> <p>質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成については、京都大学が中心となってエンジニアリング科目とマネジメント科目を協働講義とし、質の高い授業を行っている。FD シンポジウムで指摘された日本人学生の英文レポート作成力の不足についても、プレプログラムを導入するなど対応がなされている。</p> <p>外国人の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備では、特段に優れた取組があったとは言えないが、事務局の下で一元的な支援を行っている。</p> <p>事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開・成果の普及については、京都大学を核として、6 大学参加の集中講義と遠隔講義を行い、アカデミックカレンダーの調整も可能にしており、また、Seed-Net プログラムとも連携してその成果を発信していることは評価できる。</p> <p>目標の達成状況をみると、学生の受入と派遣の両方で目標値を達成している。外国語力スタンダードをクリアした学生数も目標値を達成しているが、京都大学の大学院生に課すには TOEIC 700 点は低いのではないかとも思われる。</p> <p>本事業においては、防災・減災という日本と ASEAN が協力していくべき喫緊の課題で、しかるべき枠組みが形成された。今後は学部にもまで広げて双方向短期留学による協働教育プログラムを実施する計画であり、更なる展開が期待される。</p>